

—国際交流研修派遣印象記—

第9回世界核医学会議に参加して

関西医科大学附属枚方病院 放射線部 杉 林 慶 一

4年に一度開催される第9回世界核医学会議 World Federation of Nuclear Medicine and Biology (WFNMB) が韓国のソウルで11月に開催されましたので参加してきました。

今回私が世界核医学会議に参加した目的は2つあります。1つは私自身、海外で開催される国際学会への参加経験が無く、国内の学会とは違った雰囲気を経験し見聞を広めたいという事。もう一つは第27回日本核医学技術学会総会学術大会(2007年7月14, 15日)の実行委員長をさせていただいている立場から世界核医学会の視察と韓国核医学技師との交流というたいそうな理由をつけて本学会の国際交流・研修派遣制度に申し込みさせていただきました。

後者の目的、すなわち第27回総会学術大会の実行委員会を代表して参加するという目的と隣の国で旅費も安いという理由から、なるべくたくさんの実行委員といっしょに参加したいと思い、私の国際交流派遣費用20万円と海外研究発表奨励部門で派遣が決定した河合 崇史氏(大阪市立総合センター)と對間博之氏(大阪市立大学病院)の各10万円を合わせて軍資金とし、実行委員会から堀内承治氏(大阪市立北市民病院)、長井英仁氏(国立循環器病院)、井本厚志氏(宇治病院)、鳴海 有女史(淀川キリスト教病院)が参加しました。(いくら近いからといって40万円だけで7名は無理で不足分は各自負担した。)この7名の実行委員に海外研究発表奨励部門派遣の廣田朝司氏(新日鉄広畑病院)も同行し、ソウルでは8名の大所帯で行動しました(Fig. 1)。

WFNMBの会期は10月22日(日)から27日(金)の1週間でしたが、仕事と予算の都合で3泊4日のツアーを利用し、仁川国際空港に降り立ったのが10月23日の午前11時30分でした。ソウル市内のホテルにチェックインを済ませ、早速に会場のCOEXに出かけました。COEXはソウル特別市江南区にあり、都心空港ターミナル、ア



Fig. 1 一緒に参加したメンバー(右端が筆者)。

セムタワー、コエックス展示場、現代百貨店貿易センター店からなる韓国最大の総合アミューズメント施設で、地下にはアクアリウムという水族館まであります。登録受付を済ませ、韓国での最初のミッションである第27回総会学術大会の宣伝活動にとりかかりました。日本から用意してきた英語版のポスターを会場に貼るのですが、あいにく日本核医学技術学会の展示ブースが用意されていません。展示会場をうろうろしていると福喜多学会長にお会いしたので事情を説明したところ、

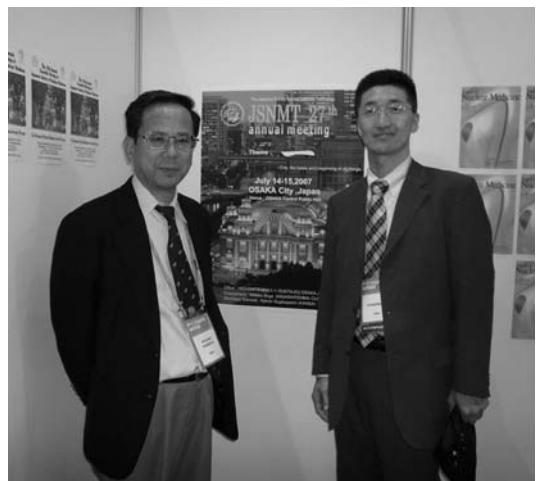


Fig. 2 JSNMのブースにて(左:福喜多学会長, 右:筆者)。

「日本核医学会のブースの片隅にポスターを貼らせてもらえるようにお願いしてみよう」ということになりました。日本核医学会のブースでは担当者の方が快く承諾してくださって、一番いい場所に2枚も貼っていただきました（Fig. 2）。

その後、今回の WFNMB の広報委員をしておられる韓国核医学技術学会次期会長の Chang Ho Kim 先生にお会いしました。Kim 先生は昨年、福岡で開催された第26回日本核医学技術学会総会学術大会に広報活動のために来日された時にご挨拶させていただいたのですが、私の顔を覚えていてくださったようで、ポスターを見せると自ら韓国核医学技術学会（KSNMT）のブースに貼っていただきました（Fig. 3）。また、その日の夕刻に開催される Technologist Welcome Reception

にも招待していただきました。

Reception はウエスタンパブを貸し切って行われ、日本からは福喜多学会長はじめ十数名が参加しておられました。会場には WFNMB の Technologist Session の Chairman をしておられる Kyu Chin Cho 先生（プログラム集に写真が載っていた）がいらっしゃったのでご挨拶をさせていただきました（Fig. 4）。Cho 先生は本学会の元学会長の金尾啓右先生とご懇意で今回も金尾先生からは是非お会いするようにと助言をいただきました。ビールでの乾杯があり、福喜多学会長のスピーチが終わった後、突然マイクで私の名前が呼ばれました。英語が一番の苦手科目である私は「来年、大阪で第27回核医学技術学会総会学術大会があります」みたいなことをたどたどしく喋って、そそくさと席に着きました。こうしてソウルでの1日目が終わりました。

2日目は発表や講演は午前中で終わり、午後から学会の公式観光ツアーがあります。我々は日本を発つ前から別のツアーを申し込んでいました。それは板門店ツアーです。板門店はソウルから北へ約80 km、南北を分断する軍事境界線上にあります。北朝鮮が2週間前に地下核実験を実施したばかりでツアーが中止にならないか心配でしたが、朝9時に予定通りバスが迎えに来ました。南北朝鮮が軍事会議を開く会議場や北の捕虜となった兵士が渡った「帰らざる橋」などを見学しましたが、韓国軍兵士にパスポートをチェックされたりして JSA（Joint Security Area 共同警備区域）は異様な緊張感に包まれ、朝鮮戦争がまだ休戦状態にあることを実感しました（Fig. 5）。



Fig. 3 KSNMT のブースにて（左：韓国核医学技術学会の KIM 次期会長、右：筆者）。



Fig. 4 Technologist Welcome Reception 会場にて（左から2番目：世界核医学会議 Technologist Chairman の CHO 先生、左から3番目：筆者）。



Fig. 5 板門店（向こうに見える建物は北朝鮮側）。

3 日目はポスター発表者の質疑応答の時間があるので展示会場に行きました。なんと同行したメンバーの内から、河合氏、長井氏、廣田氏の 3 名がベストポスター賞に選ばれていました。おめで



Fig. 6 ベストポスター賞の 3 氏（左から長井氏、廣田氏、河合氏）。

Table 1 第 9 回世界核医学会議にエントリーされた演題

Oral presentation		Poster presentation	
腫瘍	94	腫瘍	169
機器	14	機器	37
中枢神経	32	中枢神経	73
心臓	33	心臓	78
放射線管理	12	放射線管理	16
治療	21	治療	52
ビトロ	8	ビトロ	16
放射性医薬品	21	放射性医薬品	73
PET 機器	18	PET 機器	18
その他臓器	71	その他臓器	235
合計	324	合計	767
日本からの演題	26	日本からの演題	96

とうございます (Fig. 6)。

発表演題数は口述発表 324 題、展示発表 767 題で日本からの発表は口述 26 題、展示 96 題でした。展示発表が口述の 2 倍の数で、展示会場ではポスターが半分剥がれたままになっている物もあり (日本の演題ではありません)、やはり WFNMB はお祭りの要素が大きいのかと思って口述発表の会場に足を運んでみると結構活発に質疑応答を行っていました。目に付いたところでは Lecture session で PET/CT の講演に続いて SPECT/CT の講演が行われ、一般演題でも SPECT/CT 演題がちらほら発表されていました (Table 1)。機器展示会場の規模はそれほど広くはありませんでしたが、日本のメーカーの出展も多く、国内の学会と同レベルでした。

今回の WFNMB への参加で感じたことは、韓国の Technologist の方々が非常に親切に対応してくださったこと、また韓国の核医学技術が非常に高いレベルにあることを実感しました。この経験を今年の第 27 回核医学技術学会総会学術大会に生かすべく開催準備に邁進していきたいと思えます。

稿を終えるにあたって、今回の海外交流派遣の機会を与えてくださった日本核医学技術学会に感謝いたします。また、韓国の核医学技師の皆さんとの連絡のために奔走してくださった DRL の現地事務所の方に御礼申し上げます。